

# 牧師所感： 大統領選に向け討論会 —バイデン vs トランプ—

去る6月27日夜、米国のジョージア州アトランタで、次期大統領に出場予定の現職ジョー・バイデン氏と前大統領トランプ氏の討論会が催された。

ところでバイデン氏は討論会では体調不良の故に、思う存分討論出来ず、全世界の視聴者の前で失体を現わした。人々は失態の原因を高齢のために求めた。でも本人のバイデン大統領は、高齢説を否定し続けて、次期大統領選に出場する旨を明らかにし『私が最もふさわしい人物だ』と述べた。

ところがバイデン大統領は、共和党だけでなく、民主党内でも次期大統領選撤退を求める声に対して、きっぱりと撤退を否定した。

ところで筆者が思うに、バイデン大統領は、現在もロシアとウクライナの戦争が終わっていない以上、ロシアに味方するトランプに政権を渡すことは出来ないという信念からだと思う。

他方バイデン大統領の高齢に危機感を募らせる人々にとっては、あくまで権力にしがみついて、他人に権力を譲れない人だと思う人もいよう。

ところで6月半ばにバイデン大統領がウィスコンシン州訪問では、バイデン支持者が圧倒的に多いことを新聞によって知った。「バイデン氏に投票するつもりだという人のほぼ全員が、その理由として、共和党のトランプ前大統領への反感を挙げていた。『恐喝者で、重罪犯で、嘘つきで、詐欺師で。彼ほど大統領にしてはいけない人はいない』」

さて今日世界の関心は、バイデン米国大統領の次期大統領選の進退に集中しているようだ。7月3日の天声人語は、「ニュージーランドの首相を務めたジョン・キー氏の辞任だ。8年前の記者会見で突然、『今が去るべき時だ』と表明した。当時55歳。3度の総選挙に勝ち、カリスマ的な人気があった」と。新聞の論調は政治家に味方して、バイデン氏が大統領選から撤退すべきだと声を、支持しているかに見える。

ところがバイデン氏は『私は進み続ける。』と記者会見で、大統領選からの撤退を否定したと記す。

ところで次の論調でバイデン氏に関係なく「権力を手放す決断には、生き方や哲学、流儀、利害や愛憎など『全人格』が凝縮されるそうだ」とも。

さて、筆者の祖国韓国の初代大統領であった李承晩氏は、4・19学生運動が勃発し、下野を迫る民衆蜂起に立ちどころに同意し、下野したことを思い起こす。

以上アメリカの大統領選の行方は、誰も知らない。だがロシアとウクライナの戦争、イスラエルとハマスの戦争が、専ら自国の繁栄のみに集中する指導者が退けられて、世界平和に寄与する指導者が現れるようにと祈る。